

No. 988

1972

にっぽん

1972年の暮は札幌オリンピックの開会で華かに切っておとされた。ブームを呼ぶ世相の中で浮んで消えていった72年の主役たち。紋次郎、ポルノ、SL、バンド、競馬に横井さん。etc、etc。

そんな平和な繁栄の夢を打砕くように連合赤軍による浅間山荘事件が起った。2月19日、午後2時40分頃、長野県軽井沢町で、逃走中の連合赤軍5人が「浅間山荘」へ逃げ込み管理人矣田郁男さんの妻泰子さん(31才)を人質にたてこもった。籠城10日目の2月28日警察側は泰子さん救出のX作戦を展開、しかし犯人側も銃や爆弾で応戦、その凶弾のため警察官2人が死亡。作戦開始8時間後人質の泰子さんは無事救出、坂東国男ら5人の連合赤軍メンバーは逮捕された。事件後一週間を終った3月7日逃走中とみられていた他のメンバーは、^キ総括、という死の制裁を受けていることが判明、浅間山麓のアジト付近から次々に12人の全裸の死体が発見された。

こうした世の中の乱れの中で佐藤政権への不満はたかまり、沖縄返還をおきみやげに佐藤首相は長かった8年におよぶ政権にピリウドを打った。そして、日本の救世主たらんとして、「日本列島改造論」をひっさげた田中角栄新首相が誕生。ニクソンに会い、さらに宿願であった日中国交回復をはたした。

しかし、荒廃しきった国土には、新たな公害が続々と登場。光化学スモッグに学童は倒れ、P.C.Bに人々はおののいた。汚れた空を返せせという四日市市民の訴えはついに勝った。だがいまだ闘い続ける水俣の民、自らを屍民と称し、生ける屍のごとく苦しむ人々、そこにはまだ光はあたってない。

さらに、四次防に対する国民の不满、自衛隊や米軍基地の周辺では、一日として不满の声が絶えることはなかった。そうした中で国会は解散。争点なき選挙といわれながら共産党が38議席を獲得、社会党は前回の失地を回復した。

混乱と荒廃の中で過ぎゆく1972年——

富士山では大量遭難、大阪キャバレー火事で118名死亡、列車火災で死者30人——

るるいと死体がかさなる廃墟の中で田中内閣の日本列島改造は1973年へむかってどこまでおしすすめられるだろうか。